

福祉サービス第三者評価 評価結果

マーマしのはら保育園

横浜市港北区篠原町 974-25

運営主体: 社会福祉法人 遊育会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2 ~ 4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ~ 6 ページ
分類別評価結果	7 ~ 20 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	21 ~ 28 ページ
利用者本人調査分析	29 ~ 30 ページ
事業者コメント	31 ページ

2008 年 11 月 21 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	マーマしのはら保育園	
報告書作成日	2008年10月27日	評価に要した期間 5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:07年8月23日~08年8月18日</p>	<p>07年8月の職員会議で評価機関より趣旨説明を行い、08年6月の職員会議でも説明を行った。</p> <p>全職員が個々に自己評価票に記入した。</p> <p>リーダー会議で勉強会を行い、不明点・疑問点についての理解を深めた上で、再度自己評価票に記入して提出した。リーダー以外の職員には、個別に時間を設けて不明点・疑問点について理解を深めた。</p> <p>最後に職員会議でもう一度検討してまとめ上げた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:08年7月14日~08年7月27日</p>	<p>全園児の保護者(93家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 08年9月4日 第2日 08年9月9日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら保育観察。</p> <p>午後:書類調査。</p> <p>園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら保育観察。</p> <p>午後:各クラスリーダー保育士6名、准職員1名、保育リーダー1名、キッチンリーダー1名・栄養士1名に個別に面接調査。その後園長、主任に面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行った。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 08年9月4日 第2日 08年9月9日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外での活動も観察。</p> <p>年長の園児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

マーマしのはら保育園は、JR「新横浜」駅篠原口から出て、歩いて15分の落ち着いたマンション群の一角にあります。しゃれた園舎の中の各保育室はこじんまりとしていますが、保育室から廊下へ出ると広々とした自由な空間が提供され、この場所が異年齢児との交流の場の1つになっています。園の周辺環境は静かで緑にも恵まれています。園庭は駐車場建設のためにやや狭くなりましたが、山（斜面）やたいこ橋、滑り台、砂場等で子どもたちは元気に遊んでいます。

当園は、2003年（平成15年）8月に開設されました。定員は90名、平日の開所時間は7時～20時、土曜日は7時～16時です。運営する社会福祉法人遊育会は、市内にあと1つ、市営地下鉄「センター北」駅付近で保育園を運営しています。法人の前身は1986年開設の産前産後のサポート「マーマ」です。

保育理念は、「丈夫な身体をつくる子ども」「思いやりのあるやさしい心と自立心を育む子ども」「豊かな感性と意欲的に行動できる子ども」の3つを掲げています。保育の特色として「遊育・食育・知育」への取り組みを行っています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、安心して元気いっぱいに過ごしています

当園は自由保育を柱として、子どもの自主性を重んじた保育を提供しています。子どもたちは、園庭で虫探しをしたり、大縄跳びに挑戦したり、山を登ったり降りたりと元気よく遊んでいます。保育士は、いつも子どもたちのそばにいて子どもの遊びを見守り、一緒に遊ぶ中で、子どもたちが虫や自然に関心を持てるように助言しています。また、鬼ごっこではいろいろなルールを子どもたちと話し合って作り、子どもたちが飽きることなく遊びを楽しみ、続けられるような工夫がなされています。

乳児は、保育士からいつも笑顔で接してもらい、声かけをたくさんしてもらっていますので、安心してくつろいでいます。幼児の場合は、よいことと悪いことについて時機を得た保育士の声かけが行われており、自分で考え・判断していく姿勢が習慣づけられつつあります。時には自分の思うことを主張して、それがもめごとにつながることもありますが、保育士からお互いの話を聞いてもらい、自分たちで考え、いつの間にかもめごと収まり、大きなけんかには発展する場面はありませんでした。子どもたちは、保育士のことばかけや姿勢に安心感を持って接していて、両者の信頼関係がうかがえました。

保育理念「丈夫な身体をつくる子ども」「思いやりのあるやさしい心と自立心を育む子ども」が育まれています。

2、職員は連携よく、意欲的に保育の実践に努めています

園庭がさほど広くないので、子どもたちは時間差で園庭に出て遊ぶように工夫されています。乳児から園庭に出始め、最後に5歳児が出て、異年齢児同士が混ざり合って一緒に遊んでいます。保育士は、園庭の要所要所にいて子どもたちと一緒に遊びながら、危険なことがありそうな場合には素早く駆けつけて危険を未然に防いだりと、見守っています。

園庭でも室内でも、保育士が居場所を変える場合には、近くにいる保育士に「先生お願いします」等の言葉をかけてから移動しています。保育士は、保育士同士でも子どもに対するときでも、丁寧な話し言葉を使っています。

保育士は、子どもたちが自分で考え、行動できるようにと、話し合うことを大切にしています。例えば

園庭に小さな子どもがいる場合の遊び方について、年上の子どもたちがルールを自分たちで考え、実践できるように支援したり、もめごとがあった場合には、どうしてそうなったのか、どうすればよかったかを互いに考えさせたりと、子どもの話をよく聞いて、自分たちで判断できるような保育を心がけています。

3、園業務上の組織作りやマニュアル類が充実し、園運営に活かされています

園業務における責任の所在が、組織図やマニュアルに明示されています。具体的には、クラスリーダーの判断で解決が困難な場合には、保育リーダーがサポートやアドバイスをし、さらに主任が保育リーダー、キッチンリーダーを指導し、アドバイスをを行うという2段構えの構成となっていて、保育の充実が図られています。職員のモチベーションは高く、業務に対する積極性ややりがいとなって現れています。

管理運営マニュアルには、基本理念、職員の心構え10か条、組織図、各種マニュアル類が収められ、充実した内容になっています。また、就業規則の中に厳守事項として、PC使用制限、携帯電話の使用制限、個人情報管理規程、セクシャルハラスメントの防止規程等が収められています。

マニュアルは、正規職員・准職員に配布され、よく周知されています。マニュアルは年3回職員会議等で見直しを行い、必要に応じて改訂しています。サポートスタッフ（非常勤職員）へは、サポートスタッフ会議時にその都度主任から伝え、理解を促しています。

独自に取り組んでいる点

子どもたちは「本物」に触れるさまざまな体験をしています

キッズキッチン（五感で学ぶ料理体験）

5歳児は、園生活の総まとめとして「五感で学ぶキッズキッチン」を月1回実施しています。園には、子どもの背丈に合わせた調理台や調理道具が整備されています。子どもたちは料理体験を通して自分の行動に自信を持ったり、家庭で保護者と一緒に料理をして家族とのコミュニケーションが増えたりと、良い効果を生んでいます。

運動保育

3、4、5歳児は、年齢ごとに専門家から運動を学んでいます。月2回の運動保育では、思いっきり身体を動かして、のびのびとさまざまな運動を楽しんでいます。0、1、2歳児には、下肢と五指の活動を取り入れています。

このほかに子どもたちは、芸術家による絵描き体験をしています。また、月2回の外国人との交流もあります。

これらは、いずれも幼いときから本物を身に付けさせたいという園の方針で始まりました。園は、保育理念の「豊かな感性と意欲的に行動できる子ども」の実現に向け、専門家から学ぶさまざまな体験に取り組んでいます。

さらなる工夫が望まれる点

1、自然や地域の人との触れ合いを大切に

園では、運動保育を取り入れたりし、日々の保育の中でも子どもたちが思いっきり身体を動かすことを実践しています。また、園庭は隅々まで活用されていますので、それほど園の外に出ていく必要性はないかも知れません。しかし乳幼児にはできるだけさまざまな体験をさせることが大切です。その観点からみますと、散歩等の園外活動がやや不足しているようです。道行く人とのささやかなあいさつや、店などで働く人の姿を見ることなども、成長の過程では必要です。子どもたちが社会にふれる機会が増えることが望まれます。

2、保護者へ第三者委員や相談窓口の情報公開を

園は保護者に向けて、第三者委員の名前や園以外の相談窓口の紹介等を行っていません。意見を直接言うのが困難な保護者へ配慮し、いつでも要望や苦情等を受け付けるという姿勢を持つことは、保護者の安心と信頼につながります。園のしおりや園内掲示で、第三者委員の名前や園以外の他機関の相談窓口の紹介が望まれます。

3、保育の専門家として地域に向けての取り組みの充実を

園は、篠原・岸根地区地域交流教育推進会の活動を通して幼稚園、小・中・高校との交流を積極的に図ったり、自治会役員・PTA と定期的に情報交換を行ったりし、地域の子育てなどに関する問題や要望の把握に努めています。しかし、園として地域に向けての育児相談等の取り組みをまだ実施していません。保育の専門集団として日々の保育や研修を通して培った力を、地域の子育て中の親子にも提供することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の理念および目標は、「丈夫な身体をつくる子ども」「思いやりのあるやさしい心と自立心を育む子ども」「豊かな感性と意欲的に行動できる子ども」の3つを掲げ、子どもを尊重したものとなっています。
- ◇ 個人情報管理規程を定め、全職員に周知しています。またボランティアや実習生にも、個人情報保護や守秘義務について説明しています。個人情報に関する書類は、施錠できる書庫に収納しています。
- ◇ 職員は、虐待の定義や対応方法について、職員会議での話し合いを通して理解しています。
- ◇ 虐待が疑わしい場合には、保育士はすぐに主任・園長に報告し、必要なら関係機関に連絡する体制ができています。家庭支援が必要な保護者に対しては、まめに声をかけるなどをしてケアし、見守っています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 園の保育の特色として「遊育・食育・知育」を掲げ、子ども一人ひとりの育ちを大切にしたい保育を目指しています。
- ◇ 「自由保育」を柱として、子どもの自主性を重んじた保育を提供しています。子どもたちは、園庭で虫探しをしたり、大縄跳びに挑戦したり、山を登ったり降りたりと元気よく遊んでいます。
- ◇ 保育士は、いつも子どもたちのそばにいて子どもの遊びを見守り、一緒に遊ぶ中で子どもたちが虫や自然にも関心を持てるように助言しています。
- ◇ 園外活動がやや少なめですので、さらに散歩等を取り入れ、さまざまな体験の機会を増やすことが望まれます。
- ◇ 乳児は、保育士からいつも笑顔で接してもらい、声かけをたくさんしてもらっていますので、安心してくつろいでいます。幼児の場合は、よいことと悪いことについて時機を得た保育士の声かけが行われており、自分で考え・判断する姿勢が習慣づけられつつあります。
- ◇ 5歳児のキッズキッチン、3、4、5歳児の運動保育、絵描き活動等では、子どもたちが専門家から直接学び、触れ合うことを大切にしています。また、月2回外国人との交流を行っています。
- ◇ 給食の献立は、素材の味を大切にしたい和風家庭料理を取り入れています。季節の旬の素材を使用したり、伝統行事、パースデーメニューなど、食生活を楽しむ工夫をしています。また、化学調味料を使わず、だしは手作りです。さらに、おやつも手作りのものを毎日提供しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、園長・主任クラスが作成し、作成された保育計画にのっとり、年間指導計画や月間指導計画を現場の実践スタッフ（保育リーダー、保育士）が作成しています。現場の意見は園長・主任に届けられ互いに検討し合う体制になっています。
- ◇ 運営管理マニュアルが充実しています。運営管理マニュアルには、基本理念、職員の心構え10か条、組織図、マニュアル類（保育室の衛生管理、感染症、苦情対応、清掃、アレルギー対応、事故防止とリスクマネジメント、事故・ケガ対応、お散歩、不審者対応、ケガ・病気の応急対応、食中毒対応）、就業規則等が収められて大変充実した内容になっています。
- ◇ 要望や苦情を受け付け・対応するためのマニュアルがあります。職員は、要望や苦情の解決策について、リーダー会議や職員会議等で話し合い、迅速に対応するように心がけています。また、要望や苦情は、会議の議事録に記載し、専用ファイルに保管して活用できるようにしています。
- ◇ 玄関に意見箱を設置し、年2回ほどの個人面談や保護者懇談会、日々の生活連絡票（乳児）や連絡帳（幼児）、登降園時の保護者との会話などを通して、できるだけ保護者の要望や苦情等を把握するよ

うにしています。

- ◇ 入園のしおりには、第三者委員の名前が掲載されていませんし、園内にも第三者委員を紹介する掲示等がありません。また、権利擁護機関や、他機関の苦情解決窓口の紹介もなされていません。園のしおりや園内掲示で、第三者委員の名前や園以外の相談窓口の紹介が必要です。

4、地域との交流・連携

- ◇ 園は、篠原・岸根地区の幼稚園、小学校、中学校、高校、自治会、PTA、PTA0B で作る篠原・岸根地区地域交流教育推進会に、保育士もかかわって参加しています。
- ◇ 篠原・岸根地区地域交流教育推進会の音楽交流会に、4・5 歳児が参加しています。地域交流教育推進会の活動を通し、幼稚園・小・中・高校との交流を積極的に図っています。また、自治会役員、PTA と定期的な情報交換を行い、友好的関係を築いています。
- ◇ 地域の敬老会に、園のホール（支援スペース）を提供しています。
- ◇ 地域住民に向けての相談事業、地域の子育てを支援するための交流保育、園庭開放などのサービスは行っておらず、今後の課題です。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 園業務における責任の所在については、組織図やマニュアルに明示されています。具体的には、クラスリーダーの判断で解決が困難な場合には、保育リーダーがサポートやアドバイスをする体制になっています。さらに主任は、保育現場を越える場合の責任も負いますが、最終的な責任の所在は、園長にあるとしています。
- ◇ 日常的に職員から出される意見は、速やかに検討するよう務め、職員の意見を積極的に取り入れることで、モチベーション向上につなげたいとしています。
- ◇ 園運営に必要な情報は、主に園長が、市の福祉関係者、医療関係者、区内の園長会議、または法人内の管理職との会議を通じて、園内外の情報を多角的に収集・分析しています。さらに法人の理事等にもそれぞれの分野の専門家を擁し、多様な意見を取り入れた経営が可能な環境となっています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 個々の職員の資質の向上や職員評価の公平性を保つために、目標管理・研修計画・評価を連動させ、年度ごとの目標設定と評価を実施しています。
- ◇ 職員のスキルの確認は、毎年 11 月ごろに職員一人ひとりがレポートを提出し、それに基づいて園長と個別面談を実施しています。当年度目標の達成度合いの確認と振り返りを行い、現状のスキルを両者で確認の上、次年度の個人人材育成計画を作成するようになっています。
- ◇ 外部研修は職員自身が希望する研修を選択し、概ね全員が受講しています。
- ◇ 内部研修は、外部研修に参加した職員が講師となり、習得したスキルや情報を職員間で共有しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none">・ 保育の理念および目標として、「丈夫な身体をつくる子ども」「思いやりのあるやさしい心と自立心を育む子ども」「豊かな感性と意欲的に行動できる子ども」の3つを掲げ、子どもを尊重したものとなっています。・ 職員は、保育の理念・目標について、新人職員研修や職員会議等において園長や主任から説明を受け、理解しています。・ 園の保育の特色として「遊育・食育・知育」を掲げ、子ども一人ひとりの育ちを大切にしたい保育を目指しています。・ 保育計画は、園長・主任クラスが作成し、作成された保育計画にのっとり、年間指導計画や月間指導計画を現場の実践スタッフ（保育リーダー、保育士）が作成しています。現場の意見は園長・主任に届けられ、互いに検討しあう体制になっています。・ 保育計画は、保育理念・目標にのっとり、保護者の実情にも配慮して作成しています。・ 保育士は、乳児には、いつも微笑みかけながら接しており、その態度や表情から子どもの要望等をくみ取るよう心がけています。また、言葉で説明ができる子どもからは自由に意見・要望を述べさせていて、その意見や要望を保育へ反映させる等、柔軟性を持った指導計画となっています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施





- ・ 入園前の面接では、保護者のほかに子どもに同席してもらい、保育士は、その折に子どもを観察しています。
- ・ 入園までの生育歴や家庭での状況については、離乳食の状況、食物アレルギー、既往症、アトピー、行動特性などを入園前の面接時に把握し、記録を園児一人ひとりの個人台帳の中にとじ込んでいます。またその内容は、必要なときには、いつでも職員は閲覧でき、日々の保育に活かすことができます。
- ・ 短縮保育（園では導入保育と称しています）については保護者へ十分説明し、新入園児が無理なく園生活に適応できるように、個々に対応しています。
- ・ 0、1歳の新入園児に対して、個別に対応する主担当保育者は決めていませんが、入園初めには1人の子どもに対して2名の保育士が、交代でかかわるようにして、子どもが安心して園生活を送ることができるように配慮しています。
- ・ 園では、0歳から2歳までは、複写式になっている生活連絡票に毎日記入し、保護者との間で丁寧な連携を保っています。3歳から5歳も、全員が連絡帳を持っています。それぞれの連絡帳は、子どもの健康管理・安全管理のため、さらに園と家庭が、子どもの生活をつなげるという目的を持って、丁寧な記載がされており、園と保護者との連携がとられています。
- ・ 在園児に対する配慮としては、新入園児の受け入れの時期には、新入園児の登園時間を30分ずらす等の工夫をして、在園児が安心できる環境作りを心がけています。
- ・ 年間指導計画は、年齢ごとに作成しています。評価・見直しは、子どもの発達状況に応じて行っています。年間指導計画は、保育と食育について作成しており、そのキーワードは、「つながる保育」で、乳幼児期から就学期まで、子どもの個性や発達がよい形でつながるように配慮した指導計画となっています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 保育園の屋内・外は、きれいに清掃が施され、清潔に保たれています。
- ・ 保育室は南に面し、十分に陽光が取り入れられています。施設内は、エアコンで室温等が調整されており、快適な空間となっています。
- ・ 園舎は、1階のホール（支援スペース）が吹き抜けになっているので、音楽や保育士の声・子どもの声が、筒抜けとなって2階の保育室に響く状況が見られます。保育士は、状況に応じて保育内容を変えるなどの工夫をしています。
- ・ 0歳児保育室には、沐浴設備があり、温水シャワーが設置されています。また園庭の水道のうち1ヶ所は、温水が出るようになっています。沐浴設備等の清掃は、清掃マニュアルに基づいて実施され、清潔に保たれています。
- ・ 1階は3、4、5歳児の保育室があり、各保育室の間には人形コーナーや、保護者向けの掲示板が掲げられている空間があります。また広いホール（支援スペース）に続く廊下の一角に、ままごとコーナーや絵本コーナーが設置されていて、異年齢の子どもたちが自由に交流で

	<p>きる空間となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2階のプレイルームは、乳児クラスの子どもたちの交流の場となっています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0、1、2歳児には、個別指導計画を作成しています。 ・ 幼児についても特別な課題がある子どもの場合には、個別指導計画を月間指導計画の中に記載しています。 ・ 子どもに関する記録「生活の様子」「児童票」「個人面談シート」「毎月の子どもの様子」「健康管理カード」「入園時面接事項」「健康診断表」「歯科健康診査票」は、園児一人ひとりのファイルにまとめられています。必要であればいつでも閲覧できるようになっていて、全職員は子どもの情報を共有できるようになっています。 ・ 重要な申し送り事項は記録し、進級時に伝達しています。園は、次年度の担任を早めに決め、1月から現担任と一緒に保育に入ること、一人ひとりの子どもの把握を容易にし、園の方針の「つながる保育」を実践できるようにしています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園は、特に配慮を要する子どもを受け入れています。 ・ 特に配慮を要する子どもについては、個人別にクラスミーティング、リーダー会議、職員会議で話し合っています。会議の内容は、職員会議議事録や個人記録票に記録し、保育上必要な情報は、職員間で共有しています。 ・ 2階の保育室までは階段なので、身体的な障がいがある場合には、保育士が抱っこをしたり、おんぶをして2階に上ったり降りたりと、工夫して対応しています。() ・ 障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。 ・ 障がい児保育については、担当を決め、会議で担当から報告をする等を行っています。しかし、全職員で学習することについては、不十分であると園は考えており、今後の課題と認識しています。 ・ アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示書に従い、適切に対応しています。 ・ 全職員は、アレルギー疾患についての知識や情報を得ています。 ・ 食物アレルギーについては、保護者、保育室、給食室が一体となって改善に向けて取り組んでいます。判断に迷う場合は、嘱託医の指導を受けています。また、代替食や除去食を提供しています。 ・ 文化や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重する保育を目指しています。月2回の外国人との交流の日や、園の外国人保育士との接触を通して、文化や生活習慣の違いを、子どもたちが自然体で感じることができる環境作りを心がけています。 <p style="text-align: right;">当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。</p>

- 6 苦情解決体制



- ・園は、玄関に意見箱を設置し、また生活連絡票や連絡帳、個人面談や懇談会、登降園時の保護者との会話などを通して、できるだけ要望や苦情等を把握するようにしています。しかし、入園のしおりには、第三者委員の名前が掲載されていませんし、園内にも第三者委員を紹介する掲示等がありません。また、権利擁護機関や他機関の苦情解決窓口の紹介もなされていません。
- ・要望や苦情を受け付け、対応するためのマニュアルがあります。職員は、要望や苦情の解決策について、リーダー会議や職員会議等で話し合い、迅速に対応するように心がけています。また、要望や苦情は、会議の議事録に記載し、専用ファイルに保管して活用できるようにしています。
- ・第三者委員とは定期的ではないが、話し合う仕組みがあります。また、園単独で解決が困難な場合には、区役所のサービス課等と連携をとって対応するようにしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 392 472 427">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが自由に出し入れできるよう、棚やコーナーにおもちゃや教材が置かれています。乳児クラスでは保育室内にコーナーが、幼児クラスでは保育室の外のホール（支援スペース）や廊下に人形、おもまごと、絵本、折り紙などのコーナーが設けられ、子どもが自由に遊ぶことができます。 ・ 園では、守らなければならないルールや時間、天候、スペースなどの条件を理解した上で、子どもたちが自分で考え、選ぶことができる「自由保育」を実践しています。幼児クラスでは朝の会で、今日の予定や天候、「小さい子がいるからどのように遊んだらよいか」などを保育士が話し、それを聞いて「今日は何をやりたいか」「どのように遊べばよいか」などを子どもたちが考え、話し合っています。 ・ 保育士は一斉活動をやりたくない子には、強制することはありません。やりたくない子は「なぜやりたくないか、何をしたいか」を保育士と話し合い、他の活動を、一定の条件の下で選択することができます。 ・ 園庭や園庭脇のがけに虫や木などが多くいて、子どもたちは季節の自然に触れることができます。園外活動としての散歩の回数は比較的少なめです。園の方針として、クラスの集団形成がなされる年度前半までは、園外活動に慎重な姿勢をとっているためです。 ・ 棚に粘土や紙、折り紙などが置かれ、子どもたちは自由に制作することができます。子どもたちは自由に絵や制作をしたり、大きな声で歌を歌ったり、手遊びをしたりしています。 ・ 子どものけんかに際しては、保育士は双方の言い分をゆっくり聞き、どうすればよいかを子どもと一緒に考え、子ども同士で解決するように働きかけています。 ・ 保育士は子どもに話しかけるときの、目を合わせ、ゆっくり分かりやすく話しています。子どもたちも目を合わせて話を聞いており、信頼関係が感じられます。 ・ 夕方、4・5歳児が0歳児の保育室に洗濯物を届けに行き、一緒に遊ぶなど、異年齢が交流する時間を設けています。園庭で小さい子どもが転ばないように年長の子どもが手助けをするなど、ごく自然な形で異年齢がかかわっています。 ・ 天気がよい日には、園庭での遊びを積極的に取り入れています。また、月2回の運動保育の時間には、幼児は年齢ごとに、マット運動、鉄棒、縄跳び、体操などの活動をしています。 ・ アレルギー・紫外線については、保護者と連絡を取り合い、対策をとっています。また、園庭に出るときには防虫対策を行います。

- 1 保育内容[生活]






- ・ 離乳食に関しては、週1回、栄養士とクラスリーダーが話し合い、園児一人ひとりの発達に合わせ、食材の大きさや野菜の切り方を調整しています。保育士は子どものペースにあわせ、「ごっくんして」「上手だね」と声をかけ、励ましながら、食べさせています。
- ・ 食事のあいさつの前に、保育士や栄養士がメニューについて説明し、子どもたちに給食についての興味を促しています。
- ・ 5歳児は「五感で学ぶキッズキッチン」の活動を通し、食事への興味や関心を育てています。子どもたちは子ども用の調理台や調理道具で、実際に料理を体験しています。
- ・ 給食は、素材の味を大切にし、和風家庭料理を取り入れています。季節の旬の素材を使用したり、伝統行事、パースデーメニューなど、食生活を楽しむ工夫をしています。また、化学調味料を使わず、だしも手作りのものを用いています。
- ・ おやつは手作りのものを毎日提供しています。
- ・ 好き嫌いや食わず嫌いをなくすために、いろいろな調理形態で魚・野菜・乾物などを献立に取り入れて、素材そのものの味を食べる機会を作っています。また、初めて取り入れる素材や旬の素材を子どもたちに見せ、素材に対する子どもの興味を引くような工夫をしています。
- ・ 毎月献立表を作成し、保護者に配布しています。献立表の裏には「給食だより」を載せ、献立作成のポイントや食事についての情報を提供しています。また、子どもたちに人気のメニューのレシピを掲載しています。
- ・ 眠れない子どもは、みんなの邪魔をしないで静かに過ごさせるようにして、午睡を強要していません。
- ・ 一人ひとりの発達に合わせ、トイレトレーニングを行っています。乳児は「生活連絡票」を用い、排泄の状況について家庭と連絡を密に取り合っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルを整備し、それに基づき一人ひとりの健康状態を記録しています。
- ・ 日々の子どもの健康状態については、生活連絡票（乳児）や連絡帳（幼児）で保護者に知らせるとともに、登降園の際に保護者に口頭で伝えています。
- ・ 一人ひとりの健康診断・歯科健診の結果は、個人ファイルに記録しています。また、所定の書面を使って保護者に伝えています。治療の必要がある場合は受診してもらい、その結果を提出してもらっています。
- ・ 登園停止基準や、保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応についてのマニュアルがあります。子どもがもどしたときなどは、ノロウイルス対策の手順に従い、保育士が連携して、隔離、清掃を行う体制ができています。
- ・ 感染症が発生したときは、速やかに園内に掲示しています。



<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理マニュアルを整備しています。マニュアルは年 3 回の職員会議で見直し、必要に応じて改訂しています。職員・准職員にはマニュアルを配布し、サポートスタッフ（非常勤職員）に対しては、必要に応じて周知しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関するマニュアルを整備しています。マニュアルは職員・准職員に配布し、サポートスタッフにも必要に応じて周知しています。 ・ 救急救命法の研修を受けた職員が一部いて、他の職員に伝授しています。 ・ 子どものケガについては軽症であっても、必ず保護者に連絡しています。受診したものは「事故記録簿」に記録し、小さなケガは保育日誌に時間と状況を記録し、クラスミーティングや職員会議で改善策について話し合い、保育に活かしています。 ・ 園の入り口は電子錠で施錠しています。また夜間は、警備会社と防犯システムの契約をしています。 ・ 地域教育交流活動のネットワークで、不審者や変質者の出没等の情報が、ファックスや電話で速やかに入る体制ができています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけたりするような保育を行ってはならないことを、「運営管理マニュアル」に記載するとともに、全職員に周知しています。 ・ 子どもは、友だちや保育士の視線を意識せずにコーナーや外廊下で過ごすことができます。また、子どもと個別に話す必要があるときは、コーナーや外廊下、プレイルーム、事務室などで話し合うことができます。 ・ 守秘義務の意義や目的を全職員に周知しています。また、「運営管理マニュアル」の中で具体的な注意事項を記載し、職員に周知しています。実習生やボランティアに対しては、オリエンテーションにおいて周知しています。個人情報に関する記録は、事務室の施錠できる棚に保管・管理しています。 ・ 虐待については、全職員による勉強会を行い、虐待の定義と対応方法を共有しています。 ・ 性差による固定観念で保育しないための配慮の一つとして、男性保育士と女性保育士のバランスを意識した人事構成に努めています。そのため、男性用の休憩室やトイレも完備しており、環境が整えられています。

- 4 保護者との交流・連携








- ・ 在園児は年度末に「進級お話し会」、新入園児は入園前に「入園面接」を保護者に対して実施し、次年度の園の保育方針とクラスの保育目標、年間特別活動予定表などについて説明しています。
- ・ 保護者に対して、園の保育方針が理解されているかを確認するためのアンケートはとっていませんが、特別活動などでは、必要に応じてアンケートをとっています。特別活動や日常の保育を通して、保護者に保育方針の理解を促しています。
- ・ 保育士と保護者は「生活連絡票」（乳児）、連絡帳（幼児）を用い、毎日その日の子どもの様子を細かく連絡し合い、情報交換しています。また、幼児は年1回の懇談会と年1回の個人面談、乳児は年2回の個人面談を実施しています。
- ・ 保護者からの相談はクラス担任が対応し、園長・主任・保育リーダーから助言・支援を受けられる体制ができています。相談内容は記録し、継続的にフォローするようにしています。
- ・ 毎月、園便り「ぴよんピョンだより」を発行しています。
- ・ 幼児は、クラスの登降園表にその日の活動の様子を保育士が記入し、保護者に知らせています。乳児は生活連絡票に記入しています。
- ・ 年度末に実施している進級お話し会で、次年度の年間特別活動予定表を配布し、保護者が予定を立てやすいようにしています。その後の変更についても、遅くとも1ヶ月前には通知しています。
- ・ 保護者組織はありません。運動会の準備や片付け等の特別活動の手伝いは、保護者からの申し出もあり、特別活動の1ヶ月前に「お知らせ」で保護者からの協力者を募り、一緒になって取り組んでいます。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園は、篠原・岸根地区の幼稚園、小学校、中学校、高校、自治会、PTA、PTAのOBで作る篠原・岸根地区地域交流教育推進会に参加し、保育士もかかわっています。年4回の定例総会で地域の自治会役員やPTAと、地域に関する情報を交換し、施設に対する要望を聞いています。 ・ 地域住民向けの相談事業、地域の子育てを支援するための交流保育、園庭開放等などのサービスは行っていません。 ・ 今後は専門知識を活かし、地域住民に向けての子育てや保育の講習会への保育士派遣などの取り組みが期待されます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長が市・区や市外の未就園児の育児相談を、依頼に応じて受けています。 ・ 必要な関係機関・地域の団体等のリスト化は、行っていませんが、必要な情報は保管し、職員が見ることができます。 ・ 関係機関・団体との連携は園長・主任が担当し、日常的な連携はできています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篠原・岸根地区地域交流教育推進会の音楽交流会に4・5歳児が参加しています。地域交流教育推進会の活動を通し、幼稚園、小・中・高校との交流を積極的に図っています。また、自治会役員、PTAと定期的な情報交換を行ない、友好的関係を築いています。 ・ 地域の敬老会に、園のホール（支援スペース）を提供しています。 ・ 散歩していける圏内に地域の文化・リクリエーション施設がないために、日常の保育での利用はありませんが、遠足等で、ズーラシア、こども科学館、こどもの国などの施設は利用しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレット、広報誌等により、地域や関係機関に随時、情報を提供しています。また、子育て情報誌、テレビのニュース番組などに情報提供しています。 ・ 利用希望者の問い合わせには、常時対応しています。見学希望者は事務長が、相手の都合も考慮しながら対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア・実習生の受け入れのためのマニュアルを整備しています。 ・ ボランティア・実習生の受け入れは主任が担当し、記録を整備しています。 ・ 誕生会の「ワクワク・ドキドキタイム」に地域のボランティアが楽器演奏などを行っています。また、県教育委員会・市教育委員会企画の新任教諭異業種体験、近隣の中学・高校の職業体験実習も積極的に受け入れています。 ・ ボランティア・実習生から出された気づきや感想は、園の運営に反映されています。



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の運営に必要な人材について、現在は過不足のない体制になっています。 ・職員の配置については、職員に対し毎年11月頃に個別面談を行い、次年度の体制を決定しています。このため次年度の職員体制に変動がある場合でも、時間的に余裕を持った対応や補充ができるようになっています。 ・職員が、園の理念や方針を理解して「自由保育」を実践できるように努めています。 ・人事方針については、年功序列に頼るのではなく、運営方針に基づいて、職員の適性や個性を活かした目標管理を柱とする旨を、入職の際に職員に説明しています。 ・個々の職員の資質の向上や、職員評価の公平性を保つために、目標管理・研修計画・評価を連動させています。 ・外部研修については、主に主任が研修情報を収集し、講師や研修内容を十分吟味した上で、職員へ提案しています。内部研修では、外部研修に参加した職員が講師となり、習得したスキルや情報を職員間で共有したり、職員間でテーマを設定したりし、定期的を実施しています。研修の成果については、レポートの提出のほか、主任が日常業務の中で確認しています。 ・サポートスタッフは、事務室に設置されたマニュアルで、業務を確認できるようになっています。 ・サポートスタッフの指導は、正規職員であるクラスリーダーを中心に行っています。また、サポートスタッフ会議時に、主任や保育リーダーにより、実務的な研修も実施しています。 ・サポートスタッフがOJTを通じて、正規職員、准職員との良好なコミュニケーションを図れるよう、職場環境に配慮しています。 ・職員体制は、開園時間帯内をシフト制で交代する正規職員、朝から夕方まで勤務する准職員、サポートスタッフと呼ばれるパートタイマーで構成しています。全ての時間帯に、正規職員を配置した上で、准職員とサポートスタッフを配置して人材配置のバランスを考慮しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がそれぞれの気付きや疑問について職員会議で提議し、職員間で課題を共有・検討しています。さらに、改善に向けて積極的に取り組むように務め、個々の職員が自己のスキルを見直す機会にもなっています。 ・クラス間では、工夫事例などの情報を共有し、園全体のサービス向上に向けた取り組みを行っています。 ・外部の専門家を講師として招き、「運動保育」「キッズキッチン」などを開催しています。専門家が子どもと触れ合う姿から職員は学び、日常の保育に取り入れたり活かしたりして、保育サービスの充実を図っています。


- 3 職員のモチベーション維持



- ・ 保育の現場における判断は、クラスリーダーに権限を委譲し、日常の保育はその裁量で行っています。保育全般についての権限は、保育リーダーに委譲し、各クラスを横断的に管理しており、各職務の範囲と権限は明確にしています。
- ・ 園業務における責任の所在については、組織図やマニュアルに明示しています。具体的には、クラスリーダーの判断で解決が困難な場合には、保育リーダーがサポートやアドバイスをする体制になっています。さらに、上位職員である主任は、保育現場を越える場合の責任も有し、最終的な責任の所在は園長にあります。
- ・ 日常的に職員から出される意見は、速やかに検討するよう務め、職員の意見を積極的に取り入れることで、モチベーション向上につなげています。
- ・ 園の人事管理は、目標管理制度を取り入れ、個別面談、実績、能力、報酬が連動し、職員のモチベーション維持・向上のための動機付けにつなげています。
- ・ 毎年園長が職員との個別面談を行い、職員から出される多様な意見や要望を受け入れるよう努めています。個別面談が有効に機能し、職員個々からの意見のくみ取りに貢献していることがうかがえます。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員として守るべき法や規範は、就業規則に明示し、入職時の研修で伝えていきます。入職後も、職員会議を通じて園長が、日常的に理解を深めるよう努めています。サポートスタッフへは、サポートスタッフ会議時に主任から伝え、理解を促しています。 ・ ゴミの減量化については、食材の利用方法を工夫するなど、特に給食室で成果を上げています。また、保育室以外で活動するときには、電気やエアコンのスイッチを切るなど、省エネルギーを意識しています。 ・ 園全体では、ゴミの減量、省エネルギー、リサイクルへの取り組みは、子どもへのサービス低下につながらない範囲で実施するよう努めています。明文化には至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の理念や保育方針は、就業規則や詳細なマニュアルに明示されています。マニュアルは正規職員と准職員に配布しています。 ・ 入職時の研修や職員会議において、園長は理念や保育方針について、職員の理解を深めるよう説明に努めています。サポートスタッフへは、サポートスタッフ会議時に、主任や保育リーダーから伝え、理解を促しています。 ・ 園長は、目標管理制度に基づく職員との個別面談時には、理念や保育方針に基づいた目標設定を行うため、職員の目指す方向性を必要に応じて軌道修正し、職員全体の意識の統一化を図っています。 ・ 保護者の意見は、毎朝の子どもを受け入れる際に、園長自ら保護者とコミュニケーションを取り、汲み上げるよう努めています。 ・ 重要な案件を保護者へ伝える場合は、個人面談（乳児は年2回、幼児は年1回）と幼児の保護者懇談会で、主任を中心に伝えています。また、案件により必要な場合は、園長が個人面談や保護者懇談会において直接伝える体制です。 ・ 園長、主任、保育リーダー、給食リーダー、事務が月に1回管理職会議を開催しています。異なる部門の職員により、キッズキッチンや運動保育への取り組みなど、組織の横断的な議題提議と検討を行っています。 ・ 毎月開催するリーダー会議は、主任が中心となり各リーダーの資質向上のための意見交換や育成の場としています。 ・ 職員の業務状況について園長や主任は、保育日誌の記述内容や、子どもとの関わり、保護者とのコミュニケーションの様子など、日常業務を通じて職員一人ひとりを把握しています。給食スタッフや各リーダーについても、毎日の業務への取り組みや成果について把握しています。 ・ 主任は、職員一人ひとりについて把握した状況に応じて、必要な実務指導や研修参加の提案を行っています。 ・ 園長や主任は、職員とのコミュニケーションを良好に図るよう務め、職員一人ひとりの精神的・肉体的状態を把握し、必要な配慮を行っています。

	います。
<p data-bbox="151 257 430 291">- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営に必要な情報は、主に園長が、市の福祉関係者、医療関係者、区内の園長会議、または法人内の管理職（他園の園長、リーダー等）との会議を通じて、園内外の情報を多角的に収集しています。 ・ 収集した情報は分析し、園運営に必要な情報に絞り込みをした上で、職員会議などを通じて職員へ提供しています。 ・ 情報を通じて、改善課題などがある場合には、職員会で速やかに対応策を検討し、取り組みを行う体制です。 ・ 市内の保育環境充実への対応や、更なる人材育成のために、経営層は将来へ向けての考えや思いを持っていますが、明文化はされていません。 ・ 今後の運営や新たなサービスプロセス創出の可能性について日常的に検討し、今後のサービスを担うために必要な管理職の育成も行っています。 ・ 運営面で重要な改善課題については、法人では保育・医学の専門家や、文化活動家、事業家などさまざまな職業の理事を選任し、多角的な意見に基づいた検討ができる体制です。また法人外にも、園長の多様なネットワークにより、各分野の専門家への相談をすることができます。高度で専門的な意見も取り入れることができるため、多様な意見を取り入れた経営が可能な環境となっています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年7月14日～7月27日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約55.9%（93枚配付、52枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...7人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...12人、
3歳児クラス...10人、4歳児クラス...6人、5歳児クラス...7人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者は、90%です。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者のうちの96%が、保育目標や保育方針に賛同できると答えています。

【問2】入園時の状況について

「入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴を聞く対応」については、96%の満足度(*)となっています。「見学の受け入れ」等、そのほかの各項目については、80%以上の満足度です。

(*)文中での「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答をあわせたもの。

「不満」は、「どちらかといえば不満」「不満」の回答をあわせたもの。(以下同様)

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」については、92%の満足度です。「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」については、満足と答えた保護者が58%、不満と答えた保護者が36%でした。意見欄には、“季節の行事や保育について、事前に詳しい説明があり楽しみ”“新しい運動保育等の取り組みがなされ充実していてよい”と満足している声がある反面、“運動会や遠足、その他の行事に、保護者の意見が入れてもらえない”という意見がいくつかありました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、「遊びを通じた健康づくりへの取り組み」が90%の満足度です。「子どもが遊びについて満足しているか」「園のおもちゃや教材」「遊びを通じた友だちや保育士との関わり」については約85%の満足度です。しかし、「外遊びを十分しているか」では不満という答えが31%、「自然に触れたり、地域に関わるなどの園外活動」では39%が不満と答えています。意見欄には“散歩が少ない”“外遊びが少ない”という声が多数ありました。

「生活」の項目では、「子どもの体調への気配り」「給食の献立」「給食を楽しんでいるか」については90%以上の満足度です。「ケガに関する保護者への説明やその後の対応」については、約70%の満足度です。意見欄には、“よく見ていてくれる”という感謝の声もみられますが、反面“説明について不満”という声があり、保護者はより丁寧な説明を望んでいることがうかがえます。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」については、100%の満足度です。「落ち着いて過ごせる雰囲気」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については、80%以上の満足度です。しかし、「外部からの不審者侵入に対する備

え」については、65%の満足度で、27%が不満と答えています。意見欄には“ 入口の扉の開閉に対する不安 ” “ 暗証番号への不安 ” 等がありました。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「子どもに関する重要な情報の連絡体制」については、83%の満足度です。「園だよりや掲示による情報提供」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「送り迎えの際の子どもに関する情報交換」「保護者からの相談事への対応」の各項目については、それぞれ80%弱の満足度で、20%弱の不満があります。「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」は67%の満足度で、31%が不満と答えています。意見欄には“ 相談事には快く応じてもらっている ” “ よくしていただいている ” という声もありますが、“ 懇談会等で、保護者同士が互いに意見を言ったり、話し合えたりする時間が欲しい ” “ 保護者会があるといい ” 等の声がみられました。

【問7】職員の対応について

「子どもが園生活を楽しんでいるか」については98%、「子どもが大切にされているか」については96%、「話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」については92%の満足度です。しかし、「意見や要望への対応」については、満足と答えたのは69%で、27%が不満と答えています。意見欄には、“ 職員がやさしく、気を使ってくれる ” “ 親切で丁寧な対応 ” “ 明るく対応してくれる ” 等の肯定的な意見も多数見られました。

【問8】保育園を総合的に評価すると

満足度は、92%です。

【問9】園への要望など

“ 先生はよくしてくれている ” “ とても満足している ” “ 駐車場が完備していてよい ” 等の満足の声がある反面、“ 看護師がいると安心できるのだが ” “ 懇談会や個人面談の回数を増やしてほしい ” “ 保護者と園がもう少し協力し合って行事等に取り組みたい ” “ 子どもはできるだけ外に出て遊ばせてほしい ” “ 保育参観の機会が欲しい ” “ 子どものケガは、もっと詳しく報告してほしい ” 等がありました。

まとめ

保護者は、日常の保育にほぼ満足している様子が見えますが、「遊び」については、“ 外遊びが少ないのでは ” という声や、“ 散歩にも出かけてほしい ” という声がありました。また、“ 外部からの侵入に対する不安 ” “ 保護者の意見や要望に対する園の対応についての不満 ” の声も見受けられました。しかし、総合的な満足度は92%と高く、不満は8%という状況から、園に対する保護者の期待の高さの表れとも受け取れます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

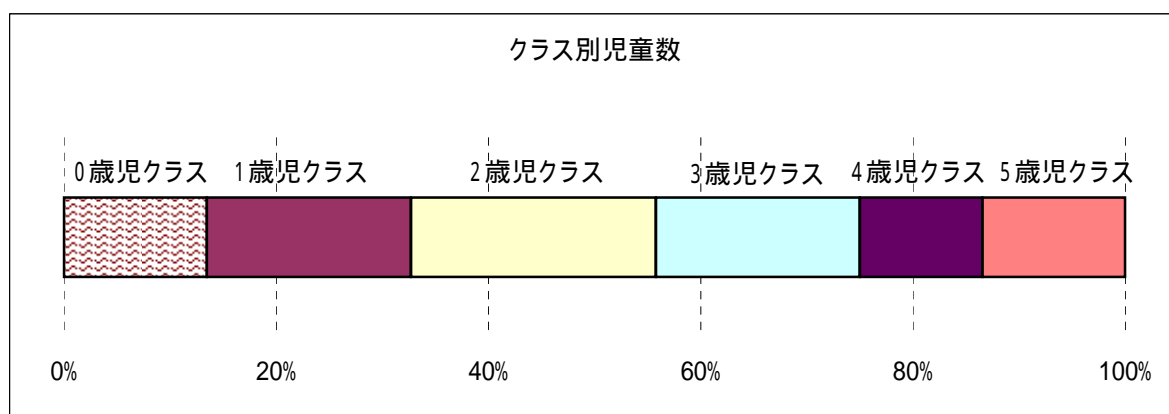
実施期間： 2008年 7月14日～7月27日

回収率： 55.9% （回収52枚 / 配布93枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
52	7	10	12	10	6	7	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



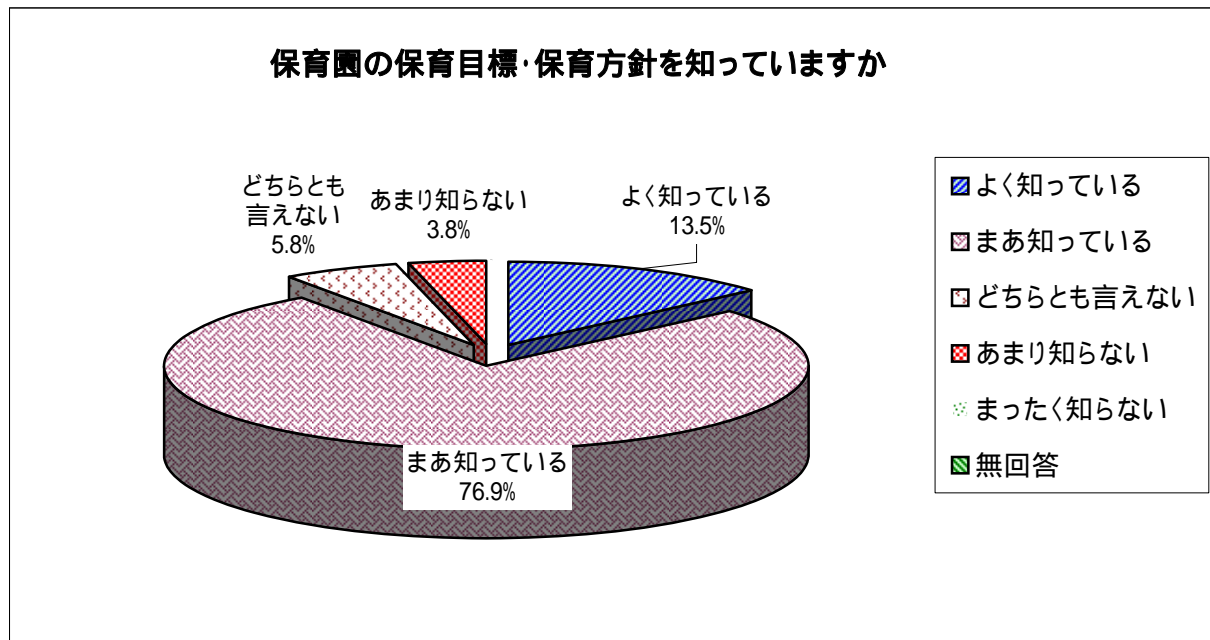
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	13.5	76.9	5.8	3.8	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

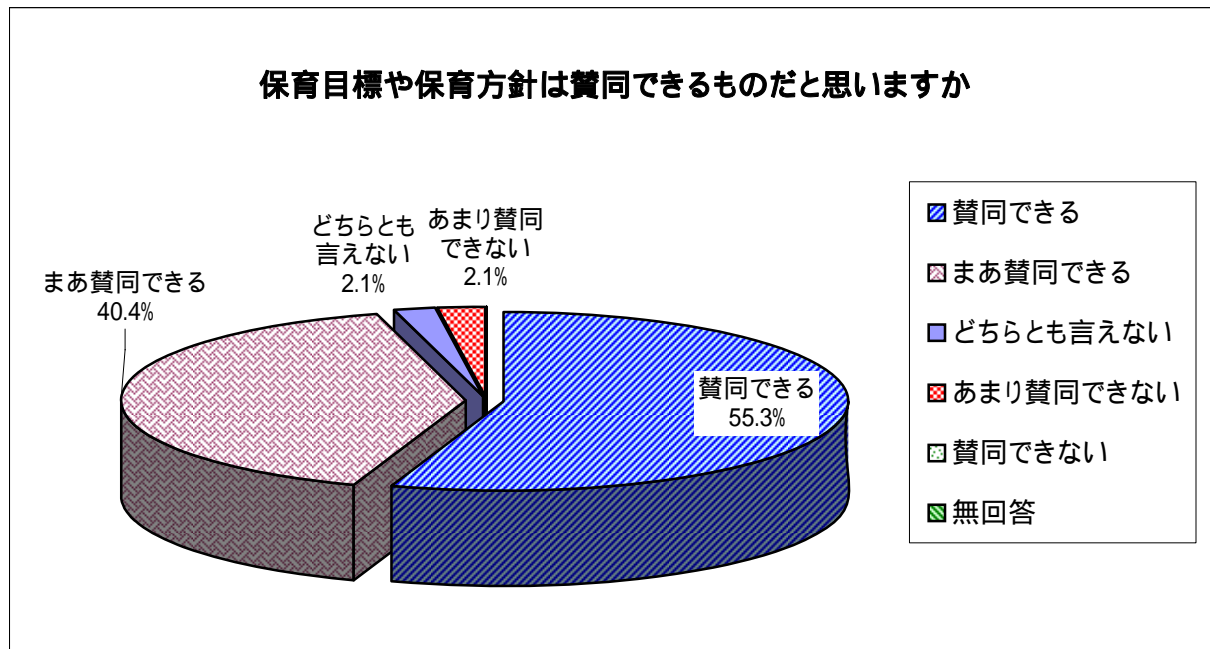


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	55.3	40.4	2.1	2.1	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

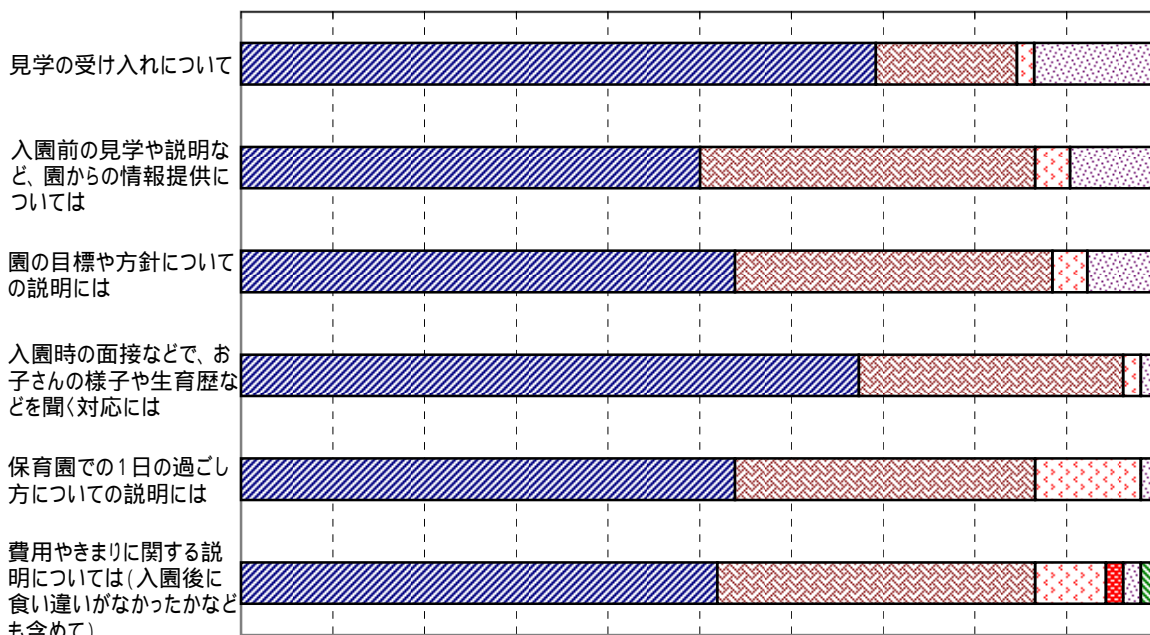
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	69.2	15.4	1.9	0.0	13.5	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	50.0	36.5	3.8	0.0	9.6	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	53.8	34.6	3.8	0.0	7.7	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	67.3	28.8	1.9	0.0	1.9	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	53.8	32.7	11.5	0.0	1.9	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	51.9	34.6	7.7	1.9	1.9	1.9	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

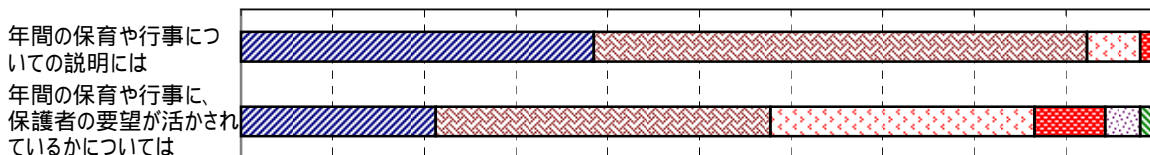
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	38.5	53.8	5.8	1.9	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	21.2	36.5	28.8	7.7	3.8	1.9	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



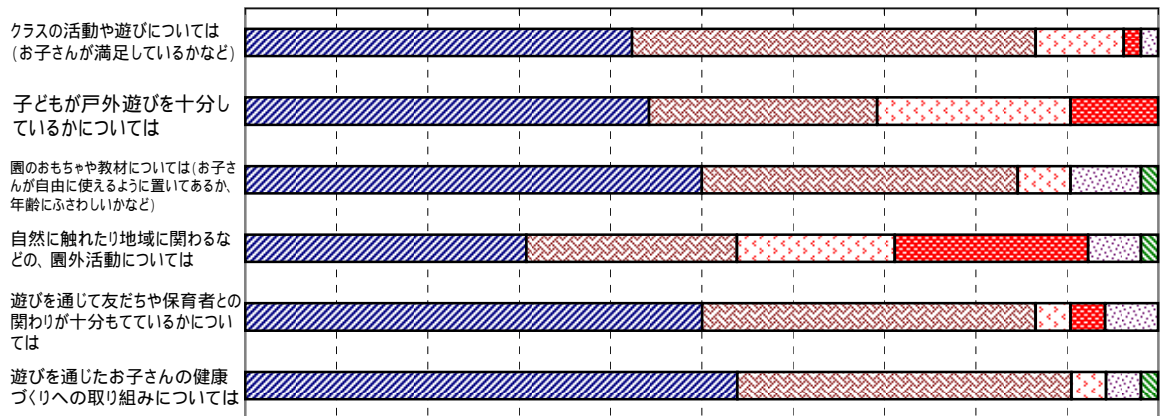
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	42.3	44.2	9.6	1.9	1.9	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	44.2	25.0	21.2	9.6	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	50.0	34.6	5.8	0.0	7.7	1.9	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	30.8	23.1	17.3	21.2	5.8	1.9	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	50.0	36.5	3.8	3.8	5.8	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	53.8	36.5	3.8	0.0	3.8	1.9	100

日常の保育内容「遊び」について

満足
 どちらかといえば満足
 どちらかといえば不満
 不満
 その他
 無回答

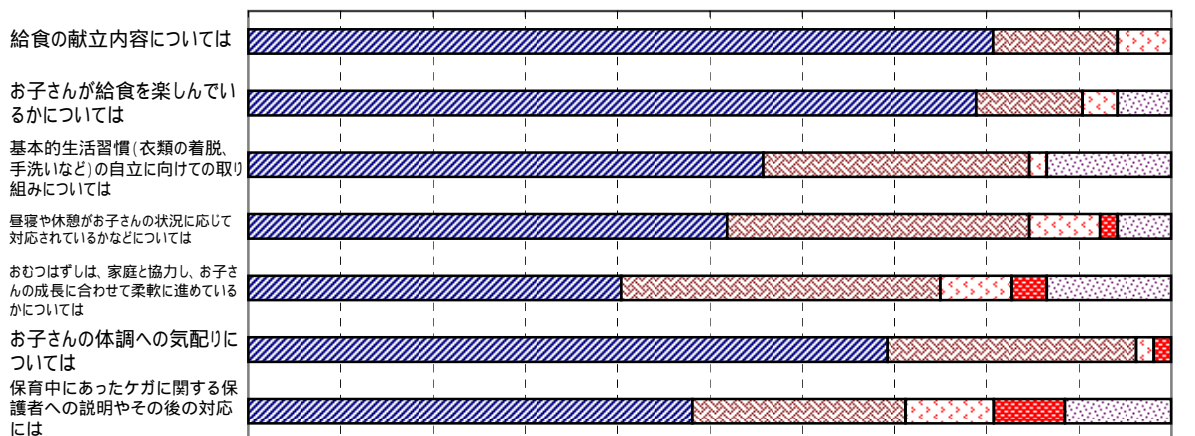


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	80.8	13.5	5.8	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	78.8	11.5	3.8	0.0	5.8	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	55.8	28.8	1.9	0.0	13.5	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	51.9	32.7	7.7	1.9	5.8	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	40.4	34.6	7.7	3.8	13.5	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	69.2	26.9	1.9	1.9	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	48.1	23.1	9.6	7.7	11.5	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

満足
 どちらかといえば満足
 どちらかといえば不満
 不満
 その他
 無回答



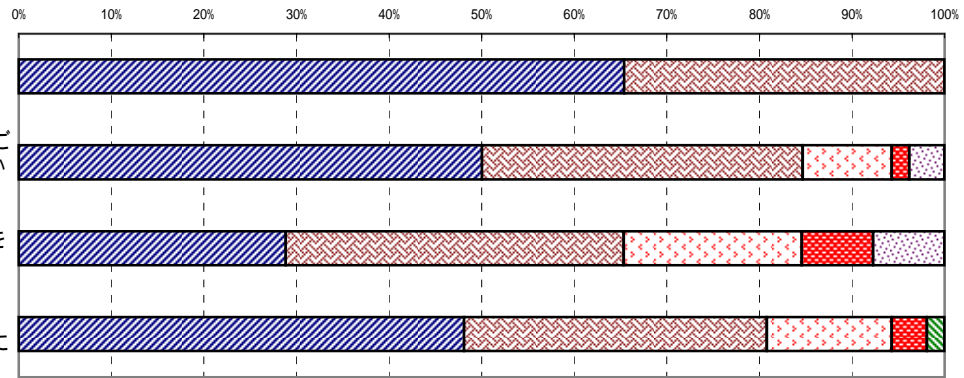
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	65.4	34.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	50.0	34.6	9.6	1.9	3.8	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	28.8	36.5	19.2	7.7	7.7	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	48.1	32.7	13.5	3.8	0.0	1.9	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



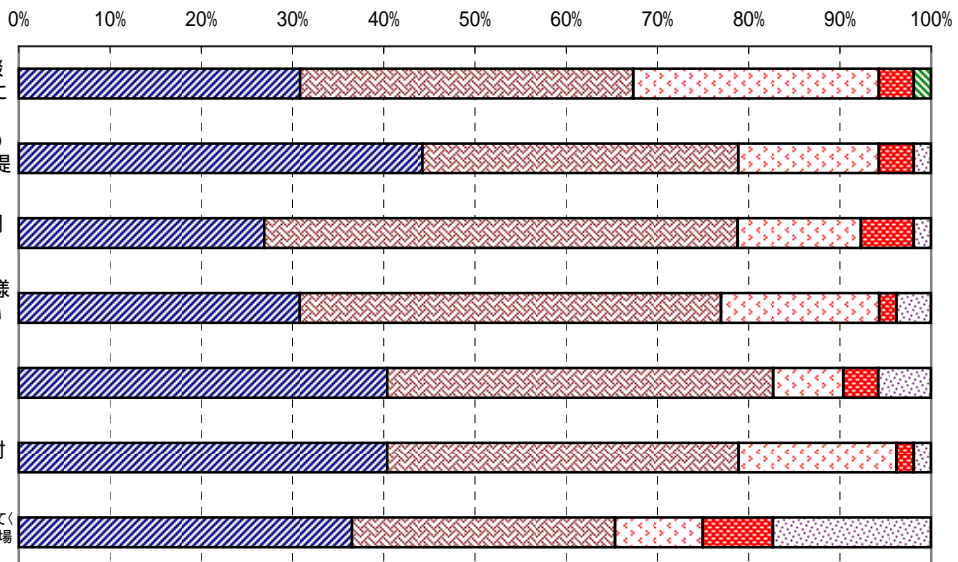
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	30.8	36.5	26.9	3.8	0.0	1.9	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	44.2	34.6	15.4	3.8	1.9	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	26.9	51.9	13.5	5.8	1.9	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	30.8	46.2	17.3	1.9	3.8	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	40.4	42.3	7.7	3.8	5.8	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	40.4	38.5	17.3	1.9	1.9	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	36.5	28.8	9.6	7.7	17.3	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

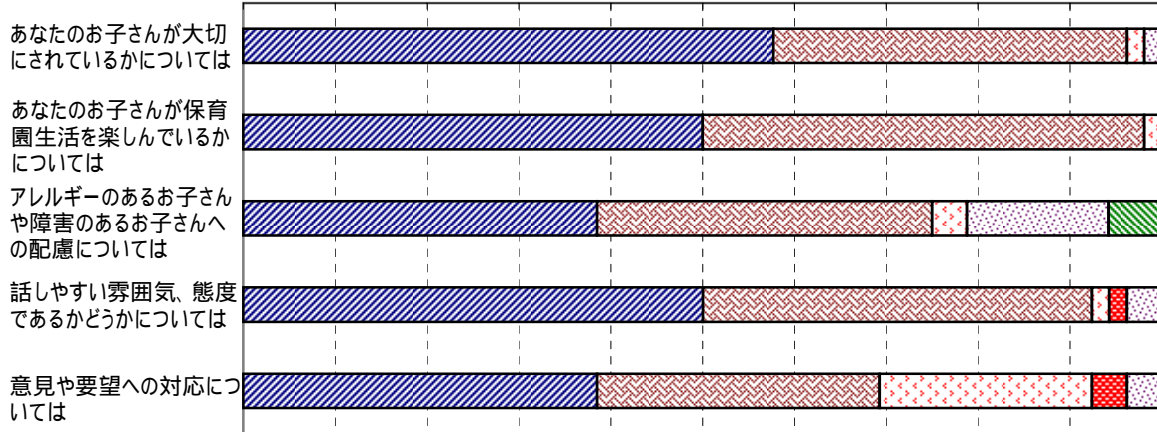
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	57.7	38.5	1.9	0.0	1.9	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	50.0	48.1	1.9	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	38.5	36.5	3.8	0.0	15.4	5.8	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	50.0	42.3	1.9	1.9	3.8	0.0	100
意見や要望への対応については	38.5	30.8	23.1	3.8	3.8	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

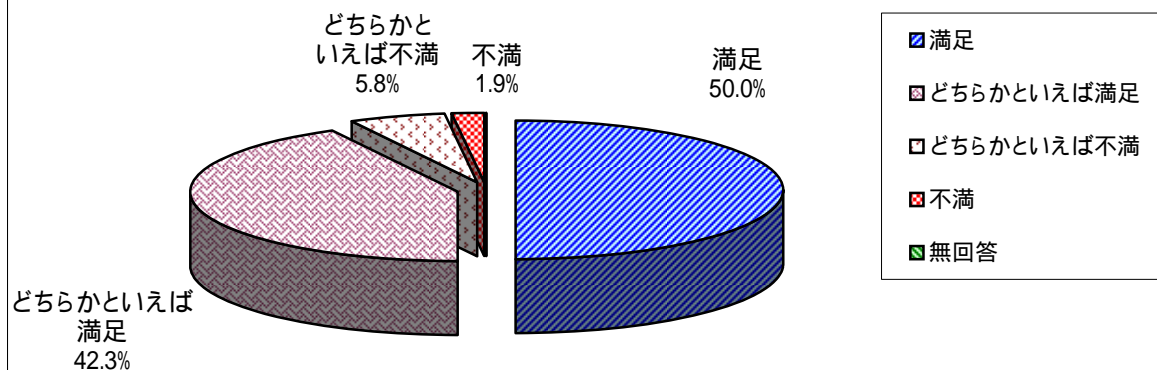


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	50.0	42.3	5.8	1.9	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 9月4日（木）9：00～18：00 9月9日（火）9：00～17：00

両日とも、9:00～13:00 ごろの時間帯を中心に、断続的に保育観察を実施
観察中、5歳以上の園児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（にし組）

子どもたちは、保育室で寝返りやはいはいをしたり、よちよちと歩いたりしています。また、ガラガラ、ぬいぐるみ、ペットボトルのマラカスなどの好きなおもちゃで自由に遊びます。保育士は、子ども3人ぐらいのグループにそれぞれ付き、一人ひとりの名前を呼んで声をかけたり、おもちゃを足したりしながら、見守っています。保育士が微笑みかけると、子どもも目を合わせて答え、信頼感が感じられます。

園庭に出る場合には、月齢の低い子どもから順番に出て行きます。子どもたちは園庭の山に、はいはいで登ったり、砂の上に座って砂遊びをしたり、園庭を歩き回ったりして自由に遊びます。三輪車に乗っている子どももいます。保育室に戻るのも、月齢の低い子どもからです。

食事は離乳食の段階に合わせた、3、4人ぐらいのグループで食事をします。保育士は順番に、「ごっくんして」「上手だね」などと話しかけ、ほめながら食べさせます。ほとんどの子どもが、給食を全部食べました。保育士は、ミルクが必要な子どもには、抱っこで授乳しています。眠くなった子どもには、トントンしたり、抱っこをしたりして、一人ずつ話しかけながら寝かせています。

子どもたちは、「おしめを替えようね」「ぬれているね」と保育士からやさしく声をかけられながら、おしめを替えてもらっています。

1歳児クラス（ほし組）

登園後の自由な時間やおやつ後は、絵本やブロックで遊びます。1階の地域支援スペース（ホール）でピンポンパン体操が始まると、その曲にあわせて踊りだした子どもが数人いて、とてもうれしそうに体をゆすっています。保育士が「ほし組さんも、みんなでピンポンパン体操をしよう」と言うと、やる気満々でみんな踊りだします。体操中、隣同士でぶつかり泣き出す子どもがいると、保育士がずっと近づいて、2人を抱きかかえ、静かに話し合います。子どもたちはすぐに泣き止んでまた体操を始めました。

子どもたちは、園庭に出るときには保育士に見守られながら、階段の手すりを持って一人で階段をゆっくりと下りていきます。園庭では、数人の子どもたちが保育士と一緒にリレーごっこをしました。「位置について。よーいドン」と保育士が声をかけると、よちよちと駆け出します。滑り台や三輪車で遊んだり、タイヤブランコに乗って揺らしてもらったり、山に登ったりなどみんなそれぞれ好きなことをして遊びます。山を立ち歩きで降りる子どもに、保育士が「気をつけて」「いちに、いちに」と声をかけると、子どもも「いちに、いちに」と降りて来ます。

2歳児クラス（そら組）

おやつの前には保育士が歌を歌い、子どもたちに座って集中するよう促します。最後の歌が終わるころには全員が席につき、みんなで「いただきます」のあいさつをします。点呼をとるときは、「ピョンピョン」「ミンミン」「ピー」など、好きな動物や虫の鳴き声で子どもたちは返事をすることもあります。

食事中に子どもがテーブルをゆすってケンカになったときには、保育士は子どもと視線を合わせて、理解できるよう時間をかけて話をしていました。トイレに行きたくなくなった子どもは、トレーニングパンツを自分で持ってきて保育士に伝えることができます。

園庭に出るときには、靴下・帽子・靴と、できるだけ自分で身支度するように保育士は働きかけています。自分で履けない子どもは「できないから履かせてほしい」と保育士に言い、手伝ってもらいます。園庭では

たいこ橋、タイヤブランコ、滑り台、三輪車、砂遊びなどで自由に遊びました。

3歳児クラス（もり組）

朝の自由遊びは4歳児と合同です。走り回ったり、じゃれあったり、おしゃべりをしたり、人形で遊んだりしています。全体的に声がよく出ていて、自分のことをよく話しています。泣いたり、保育士にまわりつく子どもには、保育士は必ず話しかけたり、抱っこしたりして受け止めています。

運動保育では、指導者の指示で犬、熊、カンガルー、ワニなどの動物になって歩いたり、鉄棒で前回りをしたりして、思いっきり身体を動かすことを楽しんでいます。

給食では、希望者は食べる前に量を減らすことができます。みんな「おいしい」とよく食べていました。全部食べたからお代わりができるので、嫌いなものでも食べるよう努力して、おかわりする子どもが多かったです。

4歳児クラス（うみ組）

朝の会で保育士が「運動保育まで時間があるけど、どうする？」「前庭に行きたい人？ お部屋で遊びたい人？ ほかにしたいことがある人？」と子どもたちに問いかけ、結局、園庭と室内に分かれて遊ぶことになりました。前庭では毛虫探しや砂にお絵かき、保育室では粘土、ブロック、ままごとなどで自由に遊びました。時間になると、子どもたちは自然に集まり、運動保育の準備を始めました。

運動保育では、川に見立てたテープを跳ぶ、かかしや熊や新幹線になって表現する、側転、鉄棒などに取り組む、などと盛りだくさんな運動を楽しみました。

もめごとの場合は、子ども同士が話し合いで解決するように、保育士はなるべく見守っていますが、収拾がつかない場合には間に入り、双方の言い分を聞いて、納得できるよう働きかけていました。

5歳児クラス（たいよう組）

「大勢が園庭に出ているので、小さい子にぶつからないように鬼ごっこをするにはどうしたらよいか」についての話し合いを朝の会で行いました。「小さい子がいる場所では走らない」などの意見が、子どもたちからたくさん出ました。その後、地域支援スペースで3・4・5歳児と一緒に体操をしました。

園庭に出ると、さまざまな年齢の子どもたちがいるので、約束どおりに気をつけながら虫探し、砂遊び、キックボードなど好きな遊びします。小さい子どもたちが保育室に入った後は、タッチ鬼やかくれ鬼をして、思いっきり園庭を走り回ります。保育士は、ルールを守らない子どもに「もう一度よく考えよう」とルールの確認をしていました。虫の卵をみつけて「園で飼いたい」と言ってきた子どもに、保育士は「あとで、図鑑で調べてみようね」「バケツに入れて持ってきて」と答えていました。

給食の前に、栄養士が新米について話をしました。子どもたちは興味を感じたようでお米を食べるとき、「甘いかな」「私は甘くない」「よくかまないからだよ」と話しながら食べていました。みんなよく食べていましたが、特にお米は人気でした。

まとめ

保育士は子どもたちが自分で考え、行動できるように話し合うことを大切にしています。幼児は自分たちが何をして遊びたいのか、どのようなルールで遊べばよいかを考え、話し合っています。また、ケンカなどの際には、保育士はなるべく自分たちで解決するよう見守っていますが、必要に応じて、間に入り、双方の言い分をゆっくり聞いています。乳児は、保育士からいつも笑顔で接してもらい、声かけをたくさんしてもらっています。子どもたちも目を合わせそれに答えていて、信頼関係がうかがえました。

園庭で遊ぶときは、昼寝が早い小さい子どもから順に出始め、最後に大きい子どもが思いっきり遊べるよう工夫されています。異年齢の交流もごく自然に行われており、大きい子どもは小さい子どもをよけて遊んだり、転びそうになると手を貸したりと自然に気遣っていました。保育士はよく声をかけあい、連携して子どもたちが安心して園生活を送れるよう見守っていました。

事業者コメント

当園は平成 15 年 8 月 1 日、静かな緑の環境に育まれた地で開園しました。

次年度には施設に対し「横浜市 人・まち・デザイン賞 まちなみ景観部門賞」を頂く幸運に恵まれ、地域の方々からも深い理解と支援を頂きながら丸 5 年を経過しました。

今回設立後 5 年を経過したのを機に、今後の課題があることも認識しつつ「第三者評価」を受審させて頂きました。

この評価を受審するにあたっては、まず、職員間で「第三者評価」を受審する意義を理解し、自己評価に望みました。

当園の現況を新たな目で振り返ると、「生活の場」としている子ども達には、他の地域に類を見ないすばらしい環境が地域の中にあります。それは、保幼小中高そして地域の方々による、乳幼児から思春期の子育て文化を伝承する「地域教育交流活動」です。教育機関の職員と保護者、地域の皆さんが一体となって、生活圏の子ども達を「健康」をテーマに 3 つのスローガンをもって積極的に活動しあっています。

当園もその一員に加えて頂き、子ども達そして職員も積極的に関わり、年代を超えた学びを経験し園生活に反映させています。地域との十分な連携が大前提にあります。

このすばらしい環境を背景に、設立時より一貫して「主役は子ども達」と、個々の自主性・自発性を尊重する保育を揺らぐことなく行ってきました。保護者の方々には誰もが平等であることと就労する立場を理解し、園に対しての特別活動等への協力の負担を軽減することを常に考え実行してきました。そして、職員は保育園特有の特性を十分に理解し認識した上で、日常保育と個人の役割を自身が明確に実践し、保育力の向上に努めています。以上の相互間の理解の上で良きパートナーシップが重要と考え、保育所保育指針の改定をも念頭におきつつ研鑽する日々を重ねてきました。よって今回の「第三者評価」は、当園にとっての考え方やあり方を振り返る良い機会となり、多々反省する点も含めより一層の改善に努め、実施する為の気づきを職員一同で共有しました。保護者の皆様には総合的に高い評価を頂きましたことを感謝しますと共に、今後は、保育の専門集団として、保育力・組織力などを生活圏である地域に向けて発信し、保育園の社会的使命を担えるよう計画しています。「主役は子ども達」であることを常に念頭に、、、 評価に関わり平等な立場で講評を頂きました関係者の方々に心より感謝致します。

理事長・園長 丹羽 勝子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
